

# 一般質問



- 新庁舎より市民の暮らしを
- 西木総合グランドについて
- 中学校統合と市役所の位置について
- 市民温水プールについて

民政会議 伊藤 邦彦 議員

## 新庁舎より市民の暮らしを

**質問** 市財政が逼迫し、市民生活が困窮している折、土地を購入して、一体型の新庁舎を、2019年まで建築する

とするが、既存施設を最大限に活用し、市民負担を最小限に抑えることが肝要でないか伺う。

**答弁** 市庁舎は市民サービスを提供する場、まちづくりの拠点で、市の財政状況等を十分考慮して、将来にわたり市民に負担をかけない手法を考えた分庁舎方式は、市民の方が一箇所で色々な事ができず利便性の上から非効率である。又、職員にあっても職務についての問題意識の共有が進まず機動力と防災力の低下となっているので一体型庁舎が必要である。

## 中学校統合と市役所の位置について

**質問** 神代、西明寺、松木内の各中学校を西明寺中学校に統合すれば

角館、生保内中学校の3校とも生徒数200名を越える学校となり、部活の充実や同級生同士での切磋琢磨もできる学校になるのではないかと、さらに、空いた神代中学校を市役所建設敷地と位置付けられないか伺う。

神代、西明寺、松木内の各中学校の生徒数の推移を見ると、減少傾向ではあるが、激減というほどではない。小規模校では、多人数の友人触れあい等の社会性の育成、部活動でのマインスマがあることは理解している。現在の各学校の状況を見ると、部活も学習活動も先生方の目が行き届いて、学力、学習状況調査等優秀な成績であり、中規模、小規模校が活躍している。地域で行われる行事にも参加して地域と一体となった教育を展開し、地域の活性化にも寄与しており、現状の規模で学校経営していくのが、現時点ではベターな判断である。

学校が統合され、空いた神代中学校跡に一体型庁舎を整備する。この案は財政負担、神代地区が

市のほぼ中心地という地理的優位性のある利点ではあるが、合併特例債を庁舎整備の主財源とした時、学校統合後に庁舎整備となるとスケジューリング的に厳しいと慮する。

## 市民温水プールについて

**質問** 市民温水プールについて、バイオマス発電施設が順調に稼働するかどうかにかかっていると思うが、仙北市は急速に高齢化が進み、高齢者の温泉療法、又、四季を通しての学校体育、水泳愛好者の期待も大きい。

温水プールを新築するか、大震災を想定に入れて、クリオン3階にある現プールを改修するのか伺う。

**答弁** 温水プールの新築は5億を越える多額の費用が見込まれるので、現財政状況から厳しく考えると、3階に位置する現プールを改修となれば、耐震性の心配もあり、いずれ助成金事業によるクリオンプールの全面改修がいいか、多角

的な角度から検討中である。

## 西木総合グランドについて

**質問** 合併前、西木総合グランドは、電光掲

示板や観覧席付野球場、全天候型のテニスコート等を備えた総合グランドの計画であった。合併協議会でも合意されていたはずだ。地域住民の落胆は大きい。それがらにどう対応するのか伺う。

**答弁** 合併後、政策調整会議で再検討が必要と判断され、財政難の折、計画を西明寺中学校グランド建設計画と改称、教育施設と地域住民の利用に供し地域活性化の拠点となる施設として整備を進めるとして、この提言書に基

づく整備をしてきたところである。利用者の意見、いろいろな状況を踏まえて、改善を視野に検討を重ねる。

(門脇 記)



改善が待たれる西明寺中学校グランド

# 一般質問



○マグニチュード9規模の地震や、駒ヶ岳の噴火等が発生した場合、市の対応は  
○市立角館総合病院の建設について

議員 田口 喜義 会 員 翠

## 災害発生！ 市の対応は

**質問** 今回の東日本大震災の影響により、周辺での地震発生率が10倍以上、上昇した活断層が全国で11カ所ある。

その中に田沢湖から横手市までの断層帯も含まれており、過去にも大きな被害があった事は承知していると思う。

このようにいつ大地震が起きてもおかしくない状況である。

また、駒ヶ岳についても、近年は周辺部の地温上昇や水蒸気の発生なども確認されている。

さらに、豪雨による被害も毎年発生している。

そこで、仙北市において地震・洪水・噴火が重なり合って発生した場合市民に正確な情報をどのように伝えるのか。

また、避難と誘導方法について伺う

**答弁** 市民への伝達方法としては、災害発生直後には防災無線による情報を提供する。角館地区には、次年度に防災無線を整備しながら全体的な



洪水被害常習地（松木内河川公園）  
病院建設は安全な場所へ

周知方法を整えていきたい。合わせて、広報車等の巡回、安心・安全メール、エリアメール、衛星電話、町内会、地域運営体などの自治組織を通して複合的、複次的に組み合わせ、周知を図る。

防災マップには避難施設56、避難場所54ヶ所を指定している。

市民を速やかに誘導できるように職員の動員体制を見直し災害に備えている現状である。合わせて、職員が広報車で、支援行動を呼びかけ、更なる危険が予想される場合は、避難勧告、避難指示を呼びかけていく。

## 市立角館総合病院の建設について

**質問** 改築に当たり角館病院はどのような医療を目指すのか。

**答弁** がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の4疾病と、救急、小児、周産期、災害、僻地5事業に対する診療方針である。特に、一次救急は角館病院で完結すべき使命があり、地域密着型の病院にならなければならない。

**質問** 角館病院の利用者を地域別に、また、仙北市の国保加入者は約3分の1であるが、社会保障3分の2の方々の利用状況をあわせて伺う。

**答弁** 入院は仙北市73.6%、大仙19.7%、県内3.5%、その他1%、外来は仙北市76.2%、大仙19.7%、県内3.5%、その他3%となっている。

社保等の分析は出ていないが、同じような状況と思われる。

**質問** 建設場所の決定に当たり選定委員会の

**答弁** 建設場所については、建設費が約75.5億円でありますが、再検討し削減を図る。面積は3ha程度である。

**質問** 角館病院建設により市の医療体系は現在と同様か、見直しはあるのか。

**答弁** 組合病院、田沢湖病院との連携を考えると、当然機能分担が必要不可欠であり、これま

答申の他、重要視する点があれば伺いたい。

来院される患者様や御家族への配慮である。通院のための利便性や公共交通機関の有無、災害に対応可能な適地、あるいは診療所との兼ね合いなどを視野に入れている。

**質問** 建設場所はいつごろまで決定するのか。それに伴い今後のタイムスケジュールは。

**答弁** 特別委員会で協議しながら年度内には決定したい。その後順次事務手続きを進める。

**質問** 病院の建設費及び用地面積と基本的な病床数は幾らになるのか。

**答弁** 基本構想では建設費が約75.5億円でありますが、再検討し削減を図る。面積は3ha程度である。

**質問** 角館病院建設により市の医療体系は現在と同様か、見直しはあるのか。

**答弁** 組合病院、田沢湖病院との連携を考えると、当然機能分担が必要不可欠であり、これま

で同様の医療体系とは異なってくることも想定される。

**質問** 自治体病院の収支は赤字でも良いのか、改築後の経営について伺う。

**答弁** 自治体病院は救急、高度医療などの不採算部門を担っている。それでも、赤字でも良いという認識は全く持つてない。建設費が経営健全化に支障を及ぼさないよう努力する。

**質問** 病院独自で事務員や管理職の採用が出来るか。

**答弁** 法的には可能だが、即座に移行は出来ない。

いずれはプロパー職員としての人材育成が必要と考える。

**質問** 救急や夜間診療も含め民間病院との連携は進んでいるのか。

**答弁** 市内の開業医から一度日曜日に診療協力を頂いている。市外では仙北組合、秋田赤十字病院と常に連携を密にしている。

（小林 記）

# 一般質問



## ○市長の政治姿勢について

仁政クラス 田口 寿宜 議員

### 市長の政治姿勢について

**質問** 門脇市政が始動してから2年の月日が過ぎた。外交面では、様々な場面でのトップセールスをはじめ華々しい活躍を見せ評価すべき点はあるが、内政面では、いささか動きが鈍いように感じる。今こそ地に足をしっかりと着け、仙北市発展の為に踏ん張る時が来ていると考える。これまでの反省点と今後の抱負を伺う。

**答弁** 2年前にマニフェストを掲げ、この職を預った身として、命がけで取り組んでいるつもりであり、人生を懸けてこの職務を全うしたいと考えている。休む事なく回り続ける事が、職務への忠誠であると思っている。そのような事から、議員、市民、職員、それぞれの方々から理解を得る事が出来ないままに行動を起こす場面が多々あった。そういう場面については、最近コンセンサスの必要性を実感し、反省をしている。

この2年間、マニフェストを推進する為の土台が形づくられ、走り出して走り続ける中で、めどがついた物、難航している物がある。残された任期の中で市民の理解を得ながら、職員とのコンセンサスのもとにパワーを結集し、最大限の努力をしつづけなければと考えている。

**質問** マニフェストのもと、各種施策が展開されている。相当な覚悟を持って当たっていると、思うが、なかなか市民から評価を得られていないのが現実であると感じている。

**答弁** アクションプランには着手しているが、着手しからの先が全く見えて来ない現状に、市民は不満を感じていると思われる。市長の掲げたマニフェストは、仙北市の将来を見据えた重要な指針であると考える。市発展の為にどのような意識のもとに進んで行くのか。

市民から期待される、これに答える為に政策として運用が始まっている制度がいくつも

ありながら、市民には改善の実感を感じて頂けない状況にある。

これは、国家が抱える閉塞感であったり、仙北市市政に対する不信感であったり、自身の力量不足などであったり、様々な要素があると思う。じっくりと検証をし、地に足の着いた活動、仕事をしたいと考えている。

**質問** 6月定例会の一般質問の際に、人口減少問題をテーマに質問をした。その時の答弁の中で定住の循環という言葉

が出された。人口3万人を切った仙北市、人口減少のスパイトは衰えていない。この状況を回避するには、定住の循環の考え方は大変重要なものがある。これを実現する為のアクションは起こしているのか。また、来年度予算を編成する際、施策の選択と集中が迫られている中で、今後どのようなアクションを起こして行くのか。

**答弁** 産業振興をはじめ、子育て環境の整備、教育、福祉、定住対策、地域公共交通の整備

等、色々な取り組みをしている中でも、本当に豊かな市民生活を実現する為に、地域の有する様々な資源を活用し、お互い助け合う地域社会の構築は必要不可欠と考える。官と民の役割や責任、その共通認識を醸成し協働するまちづくりを進めたいと考える。

**質問** 熱意を持って何事にも取り組もうとする点は評価するが、時として、思いと行動がちぐはぐになっているように感じる。思いだけが先行すると、逆方向に進んでしまう危険性がある。熱い思いを形にする為には、短い時間の中でも緻密な計画を立て、順を追って色々と進める必要があると考えるがどうか。

**答弁** 物事には、始まりがあって終わりを迎えるまではプロセスがある。そのプロセスの一つ一つであったり、一段階一段階を大切に過ごせるかどうかで、その結果が変わってくると思う。そうした気持ちを大切にしたい。

(佐藤 記)



外交、内政バランスのとれた市政運営を!

# 一般質問



○市長のマニフェストの検証について  
 ○原子力発電と新エネルギーについて  
 ○医療再生と福祉の充実について  
 ○人工透析について ○行財政改革について

**新星会 高橋 豪 議員**

## 市長のマニフェストの検証について

**質問** 市長は、この2年間の公約の中で、「これが良かった、あるいは見直しが必要だ」と思う点多々あると思うがこれまでの検証についてお尋ねしたい。

**答弁** マニフェストに「明日を創る8つの約束」を創る8つの約束とそれに基づく40項目のアクションプラン」を作り仙北市政の運営に当たってきた。その点について主なものを総括してみたい。

①市民要望の達成度調査が完了し、要望と現実のこの差を整理している。

②所得を10%増やす総合産業研究所の開設で新農業政策が芽吹いてきた。

③医師確保対策奨学金制度の創設。角館病院の新築事業が動き出した。

④地域運営体が全地域に立ち上がった。

⑤行財政改革の一端とし市庁舎建設の凍結。市長、副



2年が経過した門脇市政マニフェストを検証

**答弁** 役所と組んでいることに対しては太陽光パネルの設置である。ただ、0.22%と低レベルの需要と供給のバランスである。そのほか小水力発電にも大変興味を持っている。

**質問** 風力発電は仙北市では安定した風力を得られるかどうか若干の不安を抱いている。

**質問** 当市は、市立角館病院と市立田沢湖病院の2つの公立病院を抱えている。どちらも医師不足等の要因で厳しい経営困難を強いられている。一方、本市の高齢化率は将来40%以上になるという予測である。こうした中で本市の医療分野や福祉にどのように取り組んでいくつもりか。

**質問** 残念ながらマニフェストにかかげた医師及び看護師数の確保にまだまだ至っていない。今後も積極的に招聘活動に取り組んでいきたい。

平成20年条例制定のご承認を頂いて、現在医師4名、薬剤師1名、看護師8名の13人に対し約2,200万円の貸付を行ったが、将来仙北市の病院事業に従事してくれるものと確信している。

**質問** 福祉事業としては、2つの事業所が県の小規模介護施設等緊急整備事業補助で

**質問** 福島原発事故が起きている。福島の原発事故が起きている。福島の原発事故が起きている。福島の原発事故が起きている。

**質問** 福島の原発事故が起きている。福島の原発事故が起きている。福島の原発事故が起きている。福島の原発事故が起きている。

# 一般質問



○市立保育園・幼稚園の行方について  
○市への寄贈品の扱いについて

日本共産党 平岡 裕子 議員

## あり方検討委員会について

**質問** 幼稚園、保育園の「あり方検討委員会」の話し合いの内容と、今後の進め方について伺いたい。

**答弁** 「あり方検討委員会」は保育園、幼稚園が抱える諸課題と将来にわたる、あるべき姿などについて検討するために設置した。

一回目は、「あり方検討委員会」の設置要綱を委員の方々に説明し役員の選任をしたところである。

二回目は委員から検討テーマを(1)保育園の環境整備、(2)就学前の教育の充実、(3)保育園、幼稚園教諭の確保と職場環境、(4)幼児教育を推進しやすい行政体制づくりについて意見が交わされた。

**質問** 来年度予算に反映できる政策提案とあるが職員の待遇、時給の見直し、待機児童の解消対策が含まれるのか。

**答弁** 現状では待機児童の解消を優先し、施設の整備、民間の子育グ

ープによる託児サービスの提供を考えている。待遇等については既に検討に入っている。

**質問** 今、政府では保育を市町村の実施義務から外そうとしているが、市民が願う子育ての支援はどうなるのか。

**答弁** 今回の中間的な取りまとめでわかっている新システムの特徴としては、次の点が挙げられると分析している。

(1)市町村の保育実施責任を廃止する。(2)入園申し込みは、保護者と施設事業者との直接契約に変えていく。(3)時間刻みの保育サービスの提供に参入できる市場化を進める。

詳細の多くの部分、先送りされている状況にあるので、この後の動向に十分注視する必要があると思っている。

## 介護保険について

**質問** 4月から介護保険法が改正となり、保険料利用料の値上がりや、要支援者への生活援助時間の短縮されること

が予想されるが、市としての対応はどうなるのか。

**答弁** 現在、仙北市の65歳以上の一号被保険者数は9,888人。その中で要介護認定者数は1,905人、全体の19%である。保険料は月額4,580円であるが、介護保険制度は3年ごとに見直すことになっているので、24年度は第5期の改正の年になる。

介護報酬の改正、訪問介護の生活援助の提供時間区分については45分とする考え方がある。介護サービスの提供事業所の増、サービス利用者の増、介護職員の待遇改善の要因等から、次期保険料の値上げは避けられない状況であるのではないか。

## 国保税について

**質問** 平成23年度税率改正後の安定化計画の決算見込は安定したと言

うが、私共の保険料の払込みは大変な負担であり、市民の負担軽減を図る案はないものか。

国保税の不正受給によ

り、過大受給分をまた国保会計から返還するとすれば、被保険者の理解を得られるのか。

**答弁** 市の国保会計も加入者の高齢化により、医療費が増加し厳しい財政運営が続いていることから、今年度、安定計画を策定して、国保財政の立て直しを図っている。

不安定な負担増減は、不安感を増幅する結果になる。市民の皆様にとっては安定感、安心感の方が理解されやすいのではないかと思う。

返還金については納得していたらと期待し

ているが、その財源については議会と深く議論する必要がある。

## 寄贈品の扱いについて

**質問** 市への寄贈品の扱いが、粗雑な点がありその管理、運用は適正なものか。

**答弁** 寄贈者の意を踏まえた適正な管理、運用に努めなければならぬ。

財務規則の規定で分類して財産台帳に登録しているが、ご指摘の寄贈品は、当初の掲示形態を維持できなかったため、早急に対処するよう指示した。(安藤 記)



この絵の前に障害物を置いていた  
神代デイ・サービスセンターホール

# 一般質問



- 行財政改革について
- 高齢化社会への対策について
- 空き家対策について

熊谷 一夫 議員

## 行財政改革について

**質問** 平成22年度決算

で、一般会計・特別会計における収入未済額と不納欠損の額を合わせると、10億2,600万円とついに10億円を超えた。年々増加して行くこの現状を踏まえた上で、大事な自主財源である市税や国保税の収入未済額及び不納欠損額についての所感と今後の対策について伺う。

**答弁** 自主財源確保は至上命題であるとの認識に立ち、税の公平の観点から訪問や電話、夜間納税窓口等、きめ細やかな納税折衝、督促と並行し調査の結果、担税力がある場合には差し押さえを行っている。また、県

地方税滞納整理機構等との連携で、今後も粘り強い収納対策を継続して行く他、納税しやすい環境の整備として、口座振替納税制度の一層の普及等についても検討して行く。

尚、市税以外の私債権について、事務処理基準を定めその管理を適切に行う為、私債権管理条例の制定に向け、顧問弁護士の指導を頂きながら準備を進めている。

非常な難しいものがあるが、数字に一喜一憂する事なく、粛々と未納額圧縮の為、今後も努力して行くので理解を願う。

**質問** 第2次行政改革大綱では、滞納対策強化による収納率向上の数値目標が一般税10%、国保税9%となつている

が、この数値目標で収納率が上がるのか。また、一例を挙げれば、一般会計187億8千万円の内、自主財源比率がわずか23%の43億1,700万円、この内5億5千万円が市税と税外収入の未収金、更に3,300万円が不納欠損額で合わせて5億8,300万円である。この財源があれば市として相應の事業計画ができると思うが、どう考えているのか。

**答弁** 決してこの数値ではない。ただ、昨今の厳しい経済情勢の中にあつては、今後の景気動向が極めて不透明である事も考慮せざるを得ないと感じている。

困難事案が多数を占める滞納繰越額の収納は、

## 高齢化社会への対策について

**質問** PPK(びんびん

ころり)対策として健康医療介護にならない、させない医療、すなわち高齢者が元気で健康に生き生きと安心して暮らせる為の今後の取り組みを伺う。

横手市では具体的な取り組みを行っているが、仙北市でも積極的に取り組むだろうか。

**答弁** 保健課及び包括支援センターが中心になり、元気な高齢者には住み慣れた地域で益々元気に生き生きと暮らして頂く為の各教室を開催している。また、身体の疾病を早期に見つける検診とあわせ、生活機能の能力を評価する検査を65歳以上の方全員を対象に実施している。その生活機能評価で要介護状態に近いと判断された高齢者には各種教室を実施して

る。今後も健康寿命を延ばし、要介護状況にならない為、介護予防サポーターと共に様々な介護予防教室を開催し、病院通いではなく、教室通いをしようと呼び掛けをして行きたい。



元気に生きがいを持って暮らせる取り組みの充実を!

## 空き家対策について

**質問** 全国的にも老朽危険家屋等が増えており、所有者が指導・勧告にに応じない場合は、家屋の解体を行う所有者に

対し、解体費用の一部を助成する制度や条例を設置して対応している自治体も多いと聞くが、仙北市ではその考えはないのか伺う。

**答弁** 解体費用等一部助成及び空き家条例制定の件については、実態調査を踏まえた上で現状分析を行い、先進地の事例なども調査し、組み立てて行きたいと考えている。

(田口(寿) 記)

# 一般質問



○市民生活を災害からどのように守るか？  
○所得10%アップ 総合産業研究所について

新 星 会 八 柳 良 太 郎 議 員

## 市民生活を災害からどのように守るか

**質問** ここ数年、仙北市でこの豪雨の発生が頻繁であり、大変危険な気候変動になってきている。本市の現状についてどのように捉えているのか。

**答弁** 気象庁の調査・研究によると、1日に降る雨の量が100ミリ以上というような大雨の日数は、長期的にふえる傾向にあって、地球温暖化が影響している可能性があると考えられている。このような気象の変化を踏まえると、今後ますます大雨による災害の発生が懸念される。

**質問** 本市において、暴風、豪雨、豪雪、洪水、地震、落雷、地滑り、雪崩等の件数、被害額についてここ数年間の被害の状況について伺う。

**答弁** 平成18年から23年までの被害状況は、水害が6件発生している。これは、集中豪雨による住家の床上、床下浸水である。被害額は4億5,700万円に及んでいる。積雪、雪



目指せ6次産業化  
総合産業研究所開発の「麵恋こまち」

崩被害については1件発生している。また、風害は3件発生した。これは強風による屋根のトタン剥離などである。小計被災額は4,650万円となった。震災も2件発生している。これは簡易水道のポンプ圧送不能等である。総合計被害額は、5億400万円程度となっている。

**質問** 各地で豪雨による、地滑り等が発生しているが、本市の対策を伺う。

**答弁** 県砂防課の管理局所管と協議をしながら、危険箇所への看板設置、または広報等で啓発活動を行っている。また、本市では、県関係等の管理以外について、本年4月1日から施行している仙北市応急仮設工事実施要綱により対策を

実施している。内容は、市内で発生したがけ崩れのうち、2次災害の危険性が予想されるがけ等に対し、応急仮設工事を行うことで、第三者に対する危険を防止を目的とするものである。急傾斜地等、危険箇所の管理は県砂防課等で管理されている。県と並びに本市でも同様に巡回し、安全確認をしている。

**質問** 最近、秋田県内陸南部を震源とする地震が頻発しているが、このことについてどう捉えているのか。

**答弁** 秋田県内陸南部を震源地とした地震は61回観測をされている。そのうち仙北市では42回である。7月中旬以降はやや静穏化傾向であるが、これからも注意深く推移を見守り、市民に対し災害に備える注意を喚起していく。

**質問** 本市の平成22年度の年間降雨量は史上最大となった。今後をどう予測しているのか？

**答弁** このところ記録的な大雨になるケースがふえてきている。予測は難しいが、さまざまな災害に対処するために、地域防災計画の見直しを行った。

**質問** 内水被害の対策についてどの程度進んでいるのか。

**答弁** 過去のデータ等から内水被害常襲区域を設定して、国庫補助事業とも合わせながら対策を行っている。水路の改修や用水ポンプの設置などが、12地区のうち4カ所は発注済で、年度内に完了する予定である。

## 所得10%アップ 総合産業研究所について

**質問** 市長マニフェストの内所得10%アップの見込みについて伺う。

**答弁** 18年度ベースで172万円だった本市の一人あたり所得は、19年度には178万円まで上がったが、20年度に169万円に落ちている。ここまでは統計上の数値で調べられるが、それ以降はまだ公表されていない。同じ考え方で、市独自で推計したところによると、21年度はさらに3万円落ちて166万円となっている。190万円を目指すにはハードルはさらに高くなっている。

**質問** 仙北市の農林水産物の奨励品種について上位5番までの品目について販売実績、作付面積を伺う。

**答弁** 1番がホウレンソウ、販売額は5,893万円、作付面積は

2,254アール。2番目がアスパラガス。2,284万円。作付面積は864アールである。3番目が、シイタケで、販売額2,636万円、作付面積が2,156アール。4番目が枝豆で、2,738アール。最後はソラマメで、販売額1,971万円の689アールとなっている。

**質問** 総合産業研究所において、これまで様々な商品開発を行ってきたようであるが、現状を伺う。

**答弁** 総合産業研究所では農産物を主体として商品開発を進めている。最近では地域資源活用や安全性が注目されていることから、小麦、枝豆、ホウレンソウ、シイタケ、西明寺栗など、本市の特産品を生かした商品開発に取り組んでいる。市民の所得アップを図るためには、商品開発を行い、消費拡大を図り、生産拡大につなげていくことが重要であると考えている。そのために、本市の特産品を生かしたオリジナル商品の開発とあわせ、消費者ニーズをとらえた安定的な生産体制をつくる必要があるという考え方のもとに、進めている。

(高橋 記)